

たいようナーサリールーム： 【考察】

【できている】【おおよそできている】のみの項目が18項目

【できていない】【意識しているができていない】が50%を占めている項目は、6項目。

【できていない】が10%を超えた項目は、

- ・「反対意見を言うときは、代わりとなる自分の意見を伝えている」
- ・「勇気を持って、相手の為になることをアドバイスしている」

【できている】が100%だった項目は「不適切保育を行っていない」だった。

上記の結果から、職員会議や月案・週案・行事内容等を決める話し合いにおいて、自分の意見等を提案することに、苦手意識をもっていることが伺える。また、問題や課題を話し合う際にも、自分が良いと考える改善案等を、日頃から職員同士が意見交換をする機会が少ないと感じた。改善策として、職員同士がお互いの立場やクラス等を気にせず、意見交換や情報共有目的の対話ができるような環境を作ることを意識していきたいと考えている。具体的な方法としては、管理職を入れない職員会議やアンケート形式での意見交換などを令和6年度の年間を通して行っていく予定である。

また、「不適切保育」について、当園の職員全員が、不適切保育を行っていないといった自信をもって保育を行っていることがわかった。理由としては、子どもの人数に対して、職員数の比率が多いことで、保育士一人一人が余裕をもった状態で保育ができていることが上げられると感じる。さらに、園長、主任保育士と、他の職員が相談できる機会が多いことで、保育中の困り感や疑問等を解決しやすい職場環境であることが、最大の理由なのではないか。日常生活における、園児たち一人一人の声掛け一つとっても、子どもの気持ちに寄り添って、受容的な保育を全員で意識できるよう、今後も質の高い保育を目指していきたい。